

関川小児童 被災地へ義援金を寄付



このたび、関川小5年生児童が被災地への義援金などとして20,000円を平田大六村長へ手渡しました。これは、同校児童が昨年収穫した「大したもん蛇米2012」の配布活動を新潟市内や堀と柳の秋まつりで行った際、被災地への義援金や体の不自由な方々への募金として協力を呼び掛け、その一部を寄付したものです。

手塚宇汰さん（上野新）は「このお金は、東日本大震災で被災した人たちが、体の不自由な人たちに届けてほしい。例えば、医療費の一部として使ってもらったり、被災地で生活している人たちの食糧などに使われたらうれしいです」と話していました。

今回寄付していただいたお金は、村社会福祉協議会から日本赤十字社などを通して被災地などに送金させていただきます。

食と健康の大切さを学ぶ ～関川中で食育出前講座～

1月21日から25日までの学校給食週間にあわせて、このたび関川中学校、関川小学校、大島保育園で食育出前講座が行われました。

これは、子どもたちに食と健康の大切さを知ってもらい、地産地消や生活習慣病予防について考えてもらおうと毎年行われているもので、健康せきかわ21の栄養・食生活部会の皆さんが計画し訪問しました。

1月22日に関川中学校で行われた講座では、全校生徒を対象にクイズ形式で問題を出題。食生活の知識や地産地消について学んだほか、朝食の大切さを生徒たちに伝えました。

給食委員長の新野鈴さん（2年・南赤谷）は「今日の講座を聞いて、朝食がとても大切だということが分かりました。これからは早起きして朝食をしっかり食べるようにしたい」と話していました。



食材はすべて地元産！

愛情たっぷりの 創作雑煮で村おこし

～第九回城下町しばた全国雑煮合戦～



1月13日に新発田市カルチャーセンターを会場に開催された「第九回城下町しばた全国雑煮合戦」に村温泉旅館組合（小山雄司組合長・大内洵）と村商工会観光部、村観光協会が共同で出店しました。出店は今年で3回目。

今回は、昨年のカレー雑煮に改良を加え、村の地鶏、牛肉、豚肉、しいたけを使った自慢の一品で、昨年の10月から準備を進めてきました。

当日は、小雨が降りしきる中、約2万人もの来場者が詰めかけ、会場内は大混雑。10

時のスタート直後から各ブース前には長い行列ができていました。

新潟市から来た男性は「関川村は有名な温泉地のひとつで元々興味がありませんでした。雑煮は3種類の肉がとても美味しく、カレーとのバランスも良かったです。本当に美味しかったです」とカレー雑煮を味わっていました。

結果、49店舗中13位と健闘惜しくも昨年の9位を上回ることはできなかったものの、村の美味しい食材を十分PRできた1日となりました。

小正月の伝統行事 団子の木飾りを体験!

～関川小1年生児童～



小正月行事に親しもうと、1月16日、関川小学校で1年生児童43人が「団子の木飾り」を体験しました。

当日は、本間利次さん、トシさん夫妻（松ヶ丘）が子どもたちに団子作りやまゆ玉の飾り方を指導。子どもたちは初めての団子作りを楽しみました。

本間さんは「今、団子の木飾りを行う家庭はほとんどない。これは昔から伝わる伝統行事なので、子どもたちが大きくなったとき、自分の子どもに伝えてもらいたい。今日は、みんなに囲まれながら一

緒にできて嬉しかった」と話していました。

本間さんがこの日のために準備した高さ約3メートルのミズキの木には、まゆ玉やみんなで作った紅白の団子、せんべい焼き、折り鶴、そして子どもたち一人ひとりの願い事が書かれた短冊などが飾られ、立派な団子の木が完成。

渡邊梨乃さん（高田）は「団子作りが楽しかったです。みんなで飾ることができて嬉しかったですし、できあがった木を見てきれいだと思いました。またやってみたいです」と喜んでいました。

気づいたら手を差し伸べよう 関川中いじめに立ち向かおう プロジェクト

1月25日、関川中学校を会場に「いじめに立ち向かおうプロジェクト全校集会」が開催され、関川中の全校生徒と関川小6年生児童が参加しました。これは、関川中からいじめをなくし、安心して学校生活が送れるようにと生徒会が毎年行っているもの。

集会では、生徒会役員が中心となって製作した自主映画「気づいてよ!」を上映。学級ごとにいじめの解決策を発表し、地域の皆さんから「思いやりの心を忘れないでほしい」「このプロジェクトを忘れずに役立ててほしい」などのアドバイスを受けました。

加藤一樹さん（3年・下関）は「この集会で一人ひとりいじめに対する意識が強くなったと思います。春からは新しい3年生が中心となって、いじめのない学校を築いていってほしい」と話していました。



巳年にちなんで 大蛇の陶板を製作寄贈



このたび、東京都在住の相羽辰郎さんから、今年の干支にちなんで、大したもん蛇まつりをモチーフにした備前焼陶板と絵馬が寄贈されました。

備前焼が趣味だという相羽さんは、一昨年の卯年からその年の干支に関係する全国各地のスポットや伝統あるまつりなどをテーマにした作品を製作。テレビで大したもん蛇まつりを知り、昨年8月、村観光協会の協力を得て日帰りで村を訪れ、まつりを見学し、自ら撮影した写真を見本に製作作業に取り組んできました。

相羽さんは「備前焼は繊細な作業なので、苦勞したところもありましたが、少しでも何らかの役に立ってくれたら、そんなに嬉しいことはありません」と話していました。相羽さんからいただいた作品は、各種イベントなどで活用させていただく予定です。